

## 雲南市木次町「ふるさと尺の内公園」の鳥類

～観察を続けることで見えてくること～

森 茂晃（ホシザキ野生生物研究所）

ふるさと尺の内公園は、国道 54 号線沿いにあり、木次工業団地の隣りにある。こう表現すると、野鳥や自然とはイメージが結びつきにくいかもしれないが、一方では丘陵地の山林に隣接しており、約 2.7ha の園内には 3 つの池と小川が整備され、多種多様な樹木が植えられている。そして、当財団はこの公園を野生動植物の生息場所として提供できるよう整備と維持管理を行っている。

もう少し公園のある環境について概説してみると、公園敷地の標高は約 80m で、丘陵地はもっとも高いところでも 140m 余りであり、里地地域に属する。その丘陵地は、かつては里山林としてよく利用されていたと見られ、現在の植生図を見ると、この地域の本来の植生であるスダジイやタブノキなどの生える照葉樹林はほとんどがアベマキ・コナラ群落に置き換わり、スギ・ヒノキの植林も入り混じっている。

では、こうした環境にはどのような野鳥が生息しているだろうか。人の営みのすぐ隣にある山林（丘陵地）と、そこに整備された公園にはどのような鳥が見られるだろう。身近にあってよく目にするような場所ではあっても、やはり実際に調べてきちんと記録に残しておきたい。それは、公園を野生動植物の生息場所としても提供できるよう維持管理していく上で必要な情報でもある。そのような考えから、毎月 1 回の定期調査が始まった。

その定期調査は、2005 年 6 月から始まり、現在も続いている。毎回、午前中のほぼ同じ時間に公園と隣接する丘陵地を歩き、目視または鳴き声から種を確認し、その数を記録する方法である。その結果、9 年間（2014 年 6 月現在）で 78 種を記録している。調査地は樹林がおもな環境であるため、スズメ目の小鳥類が多いが、ダイサギやアオサギ、オシドリ、カワセミやヤマセミといった水辺に見られる鳥のほか、フクロウやハイタカなどの猛禽類も記録は少ないが観察されている。そして、一年を通して見られる種、夏あるいは冬などの季節毎に見られる種、一時的に飛来したと考えられる種というように、調査回数を重ねることで観察時期が把握できるようになり、記録される頻度も比べることができるようになってきた。中には、園内と丘陵の林内の両方で多く観察

される種もあれば、どちらかに出現頻度が偏る種があることや、記録が減ってきたと見られる種があることもわかってきた。

このように、同じ場所で同じ方法による観察を続け、記録を残すことで見えてくることがある。これらのことは、野生生物の保護や自然環境の保全を考える上で、実はいちばんの基礎であり重要なことと考えられる。

定期調査で記録された鳥類(公園内と丘陵地)			
科名	種数	おもな種	
キジ科	2	ヤマドリ、キジ	サンショウクイ科 1 サンショウクイ
カモ科	2	オシドリ、カワアイサ	カササギヒタキ科 1 サンコウチョウ
ハト科	2	キジバト、アオバト	モズ科 1 モズ
ウ科	1	カワウ	カラス科 3 カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス
サギ科	3	ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ	キウイタダキ科 1 キウイタダキ
カッコウ科	1	ホトトギス	シジュウカラ科 4 コガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ
アマツバメ科	1	アマツバメ	ツバメ科 3 ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ
チドリ科	1	イカルチドリ	ヒヨドリ科 1 ヒヨドリ
タカ科	5	トビ、ハイタカ、ノスリ、サンバなど	ウグイス科 2 ウグイス、ヤブサメ
フクロウ科	1	フクロウ	エナガ科 1 エナガ
カワセミ科	2	カワセミ、ヤマセミ	ムシクイ科 1 メボソムシクイ
キツツキ科	2	コゲラ、アオゲラ	メジロ科 1 メジロ
※スズメ目	53	※科ごとには右の表	レンジャク科 1 キレンジャク
			ミノサザイ科 1 ミノサザイ
			ムクドリ科 1 ムクドリ
			ヒタキ科 14 シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、キビタキなど
			スズメ科 1 スズメ
			セキレイ科 4 キセキレイ、ハウセキレイ、セグロセキレイなど
			アトリ科 7 アトリ、カワラヒワ、マヒワ、ベニマシコなど
			ホオジロ科 5 ホオジロ、カシラダカ、ミヤマホオジロなど
			チメドリ科 1 ソウシチョウ

計 33科78種

その他の情報を含めると82種